

うめたてち

山崎美花奈

みんなが green land に住むと口々に。

わたしがタイヤに乗せられて、すべる大地の真下には、虫達の溶鉱炉。そのまたお腹の中には、炭疽が小さく咳込んでいる。よそから運び込まれたやまいけどもが、肩よせはげまし息をする。乾いた咳は、固い表皮をくぐり抜け、黄色く煤けて吹き付ける。

（どこかわるいの）

（つちがあわないんだ）

（つちってだあれ）

（ああ、われわれがつちなのか、はは）

あなたは green land に住めと口々に。

タイヤは回る、きらきらがやく塵の上を走る、むこうの永久凍土はほら、いまにも空までとどきそう。

あんなつやつやの凍りの中にも、小さな生き物、見つめる先はゆめみたいなふいよるど。凍りの中は暖かい、お腹に灯りを灯している。

（またよそ者が来た）

（みんなよそ者じゃないの）

（よそ者は運河のむこうにいるよ）

（わたしたちよりも前からね）

足元がおぼつかない……

green land に住もうかな。